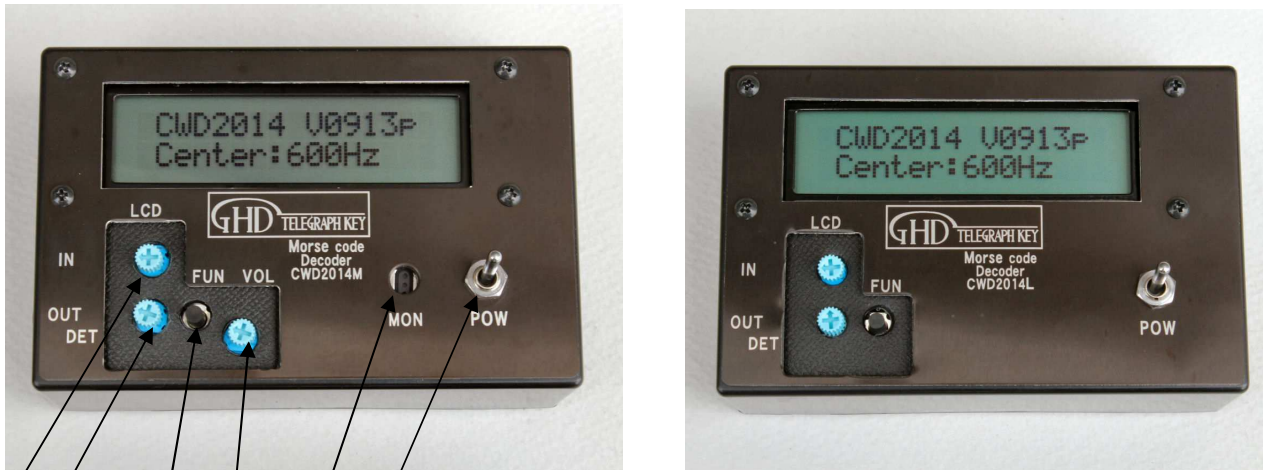


CW 解読器 CWD2014L(M)取扱説明書

Rev2015.06.23

この度は CW 解読器 CWD2014L、CWD2014M のお買い上げ誠に有難う御座いました
本器は CW 愛好者の会 A1 Club さんで開発された “CW 復号器” CWD2014 を弊社で製品化しました
モニター音付の CWD2014M とモニター音無しの CWD2014L です



① ② ③ ④ ⑤ ⑥ 写真の左はモニター音付の CWD2014M 右はモニター音無しの CWD2014L です

接続及び操作方法

- 1 電源スイッチ⑥を ON します、画面の様な表示になります
- 2 表示部(以下 LCD とします)の文字の明るさの調整はツマミ①で行います
- 3 付属のコードのプラグを端子 IN に差し込みます、プラグのもう片方は解読したい機器のイヤホン端子に差し込みます(本器の IN と OUT は並列接続のステレオジャックです、付属のコードはモノラルです、ステレオのプラグ付コードが必要な時はおお客様でご用意願います、ステレオの時の解読 CH は左です)、イヤホンを使う時は OUT に繋がります、ステレオのイヤホンにも対応しますが、一部の Audio イヤホンでは相性が悪く、解読不可になる事が有ります(4P プラグのイヤホンは使用出来ません)
- 4 モールス符号を入力し LCD の左上に * の表示が符号に合わせて点滅するようにボリューム②を調整します、* の後の数字はおおよその速度(wpm:11~30)を表します、その次の E は欧文を J は和文を表します、入力された符号の”ホレ”で和文に”ラタ”で欧文に戻ります(和文の訂正符号の”ラタ”の時はスイッチ③を押して下さい)
- 5 スイッチ③の短押しで、強制的に E/J の切換えも出来ます(スイッチ③の頭がグラグラしますがこれは正常です)(E/J の自動切り替えは完璧ではありません、和文の訂正符号等、必要に応じて手動で切り替えて下さい)
- 6 E/J の次の表示はフィルターのバンドワイズです、ナローの時は > と ワイドの時は] を表しています、スイッチ③の長押しで切り替える事が出来ます
- 7 解読には入力した CW 符号のトーン周波数と本器の中心周波数を合わせる必要が有ります、中心周波数変更は スイッチ③を押したまま 電源スイッチ⑥を入れ 直ぐにスイッチ③を離します これにより中心周波数設定モードになり、スイッチの短押しで 500Hz-600Hz-700Hz-800Hz-500Hz という様に中心周波数を変更出来、スイッチの長押しで設定がメモリーに書き込まれ、電源を切っても保持します、出荷時は 600Hz です
- 8 ツマミ④はモニター音の音量ボリュームです、モニター音は⑤から出ます(スピーカーが小さい為音は小さいです)
(モニター音無しのモデル CWD2014L にはこの④と⑤は有りません)

- リグとの接続の際、雑音や混信有ったり、個性的な符号の解読は困難だったり、出来ない事も有ります
- デザイン、色、パーツ、ケースの形や大きさが変わる事があります
- 電池交換は裏フタを外して交換します、長い間使わない時は電池を外してください、電池は液漏れする事が有ります年に1度は必ず電池交換をして下さい、裏フタを外す時は市販のマイナスドライバーをお使い下さい
- 本器は出来るだけ安価に作っています、パネルその他にキズが有ったり、製造に完璧でない所が有ったりします
小型、軽量を目指しておりツマミが小さい為に回しにくい点があります
- 製品には印刷した取説は添付していません、本サイトを印刷してお使い下さい

使用方法の一例

1 GR301A/er (送信練習器) と繋ぎ パドル、縦振り、バグキー、複式キー等の符号が解読出来るように練習すれば 綺麗な聞きやすい符号になり 送信に自信がつかます。

・本器の中心周波数は 600Hz にします(バンドワイズはワイドにします)



写真は GR301A/er にパドルを繋ぎ解読した場合です

2 NHC-05G (受信練習器) と繋ぎ 苦手符号の表示、確認が出来ます(毎分 125 文字まで対応します)

・本器の中心周波数は 800Hz にします(但し NHC-05G で設定を変えた時は、その設定周波数にします)



写真は最高スピードの 125/分を解読した場合です

3 リグのイヤホン端子と繋ぎ受信のアシストとして使えます 交信に余裕が持てます。

(但しノイズが多かったり、混信が有ったり、早すぎる局や極端に短い交信や個性的な符号の解読は出来ません、**解読の実力は中級者程度です**)

・リグの受信ピッチ(イヤホンから聞こえるモールス符号の周波数)と本器の中心周波数を合わせます

- ① 50MHz のビーコンを受信
- ② 7MHz の混信が有った時
- ③ パイルで凄く早い局の場合



④ 和文ラグチュウの場合



CW 解読器 **CWD2014L(M)** Q&A

Q1 接続したが *印 が点かない

- A1 ①解読する機器のトーン周波数と CWD2014L(M) の中心周波数を合わせる必要があります
(CWD2014L(M) の中心周波数を合わせる方法は取説の1ページを参照してください)
- ② CWD2014L(M) の OUT に繋いだイヤホンは もととの 解読する機器のイヤホンを使用してください
(一部の Audio 用イヤホンは 相性が良くないようでこれを使うと *印 が出なくなる事が有ります、テレビやラジオ用の一般的なモノラルイヤホンの使用をお勧めします、4P のイヤホンプラグは不可です)
- ③ CWD2014L(M) のツマミ②をゆっくりと左又は右に回し *印 がはっきりと点く 様に ツマミ②を調整します (尚ツマミ②は単なる入力レベル調整のボリュームではなく 信号のしきい値の調整です)
- ④ GK509A は イヤホン端子が無い為 GK509A の OUT 端子に接続しても解読は出来ません
(解読するにはモールス符号のトーン信号が必要です、但し直流が載っていない事)

Q2 解読はするが T T T や E E E しか 表示しない

- A2 ① ツマミ②をゆっくりと左又は右に回し *印 がはっきりと表示し正常に解読出来るようにします
(このツマミは単なるレベル調整ではなく 信号の しきい値 の設定です)
- ② 極端に遅い符号や 極端に早い符号、極端に短い交信の符号は 解読できません
- ③ 解読したい機器のイヤホン端子に直流が載っているとこの様になる事が有ります

Q3 解読はするが 意味不明になる

- A3 ①ノイズや混信が有ると正しく解読出来ません
- ②個性的な符号は解読出来ません、文字にも 綺麗な文字と 汚い文字が有る様に CW の符号にも綺麗な符号と 汚い符号が有ります 汚い符号や**文字間にスペースのない符号**は 解読できません

Q4 解読技量は どの程度ですか ?

- A4 アマチュア無線のモールス通信をしている方々の中級者程度です
(初心者よりは優秀ですが 上級者よりは 劣ります、上級者が取れない様な符号は解読出来ません)

Q5 届いたが 中から ガラガラ音がする

- A5 輸送中の衝撃が 大きいと 内蔵の電池が電池ホルダーから外れることが有ります、この様な時は裏蓋を外し 電池の + - を正しく装着してください、

Q6 和文/欧文の自動切り替えが思ったようにならない

- A6 この様な時はスイッチ③を押して 手動切替をしてください
(E/J の自動切り替えは完璧ではありません、和文の訂正符号としての”ラタ”等、必要に応じて手動切替をして下さい)
尚 解読ソフトの変更は出来ません、現状が製品実力です

981-3326

宮城県黒川郡富谷町明石字下向田 24-14

株式会社 GHD キー